

第29回 宇宙科学・探査小委員会 議事要旨

1. 日時：令和元年5月7日（火） 13：00－14：30
2. 場所：宇宙開発戦略推進事務局大会議室
3. 出席者
 - (1) 委員
松井座長、関委員、永田委員、竝木委員、松本委員
 - (2) 事務局（宇宙開発戦略推進事務局）
高田事務局長、行松審議官、星野参事官、高倉参事官、森参事官、
山口参事官
 - (3) 関係省庁等
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA） 國中理事
倉崎理事補佐
4. 議事要旨
 - (1) 宇宙科学・探査プログラムについて
JAXA・宇宙科学研究所から、資料1を用いて、宇宙科学・探査ロードマップについて説明があった。

委員からは、以下のような意見があった。
 - 「戦略的海外共同計画」の明示は、「プロジェクト」であることがよくわかるので良い変更である。
他方で、「小規模計画」も、小型ロケットや大気球といった宇宙科学研究所の飛翔機会を前提とした「プロジェクト」であることをよく意識し、宇宙空間への飛翔機会の高頻度化を図るべきである。
これは、人材育成の観点からも重要。大学院生に貴重な機会を提供するという視点から、大学へのミッションの一部委託なども検討されると良い。
 - 「宇宙科学と短期的には直接関係のない工学技術の蓄積」も重要。工学に立脚したミッションが立てられるのであれば、工学も、基盤経費のみならず、フロントローディングの対象としてもよいのではないか。
 - (2) フロントローディングの具体的な進め方について
JAXA・宇宙科学研究所から、資料2を用いて、フロントローディングの具体的な進め方について説明があった。

委員からは、以下のような意見があった。
 - プログラム化という視点に立てば、フロントローディングの対象技術が将来のどのようなミッションにつながるか、丁寧に説明することが必要である。
 - 将来の複数ミッションに影響するキー技術、という視点は重要である。

○MMXのフロントローディングに際しては、はやぶさ2などの先行ミッションで得られた教訓を反映することも、プログラム化の意味でも重要である。

○「産業界との連携」に際しては、宇宙・非宇宙問わず、技術を有する民間企業の宇宙科学・探査への参入を促すことも重要である。

また、今後は、宇宙科学研究所自身がパテントなどの多様な収入を積極的に得るような仕組みの構築についても検討すべきではないか。

(3) 工程表の改訂に向けた重点事項について

事務局から、資料3を用いて、工程表の改訂に向けた重点事項について説明があった。

委員からは、以下のような意見があった。

○国際宇宙探査に関する論点は、今年きちんと議論しなければならないポイントである。

○国内の人的基盤の強化に関しては、大学のみならず、産業界の人材育成も重要である。

以 上